

『中小・中堅企業のデジタル化・DX推進とデジタル・DX人材について』

ChatGPT など、AI 技術の急速な進展もあり、デジタル・DX は注目されている。ビジネスの現場においてもデジタル・DX が浸透する中、中小・中堅企業におけるデジタル化や DX 推進の余地はまだまだ大きく、デジタル人材や DX 人材へのニーズが高まっている。本調査研究では、大阪府の中小・中堅企業のデジタル化や DX 推進、デジタル・DX 人材の現状や課題をアンケートで探った。

○調査結果のポイント

(1) 中小・中堅企業は DX を達成していないケースが多い

[1] デジタイゼーション [2] デジタライゼーション [3] DX という3段階で DX 推進をみると、DX を達成していない中小・中堅企業が多い。

(2) 今後の人材採用では、デジタル化や DX 推進に関する提案ができる人材をかなり重視

今後の人材採用においては、デジタル化や DX 推進に関する提案ができるといったデジタルスキルをかなり重視している。

(3) デジタル化・DX 推進には代表者自身のアプリや管理システムへの知識が重要

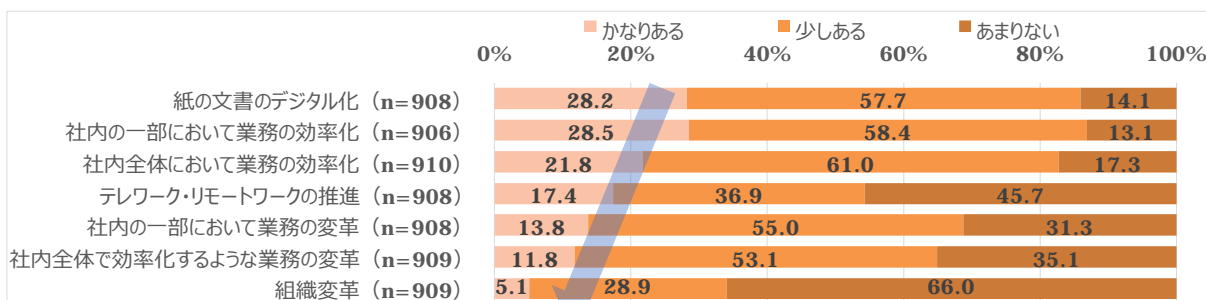
中小・中堅企業の代表者が高齢であったり、IT 関連業務の経験が無くても、デジタル化・DX 推進の余地は十分にある。一方、代表者自身が、PC での事務処理に加えて、アプリや管理システムのデジタルスキルを有している方が、社内のデジタル化・DX 推進につながっている。

○調査結果の概要

(1) 中小・中堅企業の DX 達成度合い

DX 推進には、主には、[1] アナログだったものをデジタルにする（デジタイゼーション）、[2] デジタルを活用して生産効率・業務効率が向上し、デジタルデータが蓄積される（デジタライゼーション）、[3] デジタルを活用してビジネス・組織を変える（DX）という3段階のステップがある。デジタイゼーション（図表1の上寄りの項目）から、DX の色合いが強くなるほど（図表1の下寄りの項目）なるほど、変革がかなりある、という企業は減っていく傾向が明らかである。

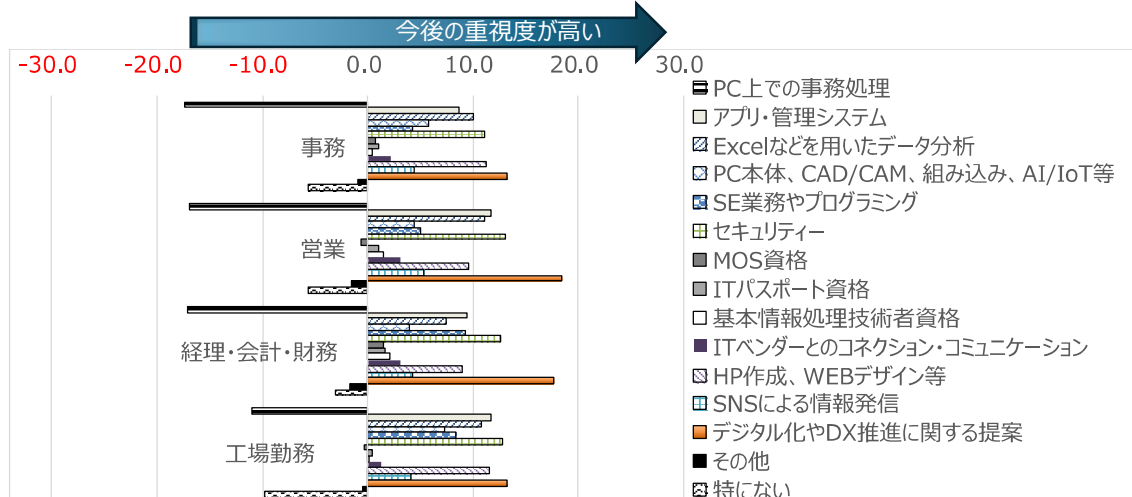
図表1 デジタル化の導入による社内の業務プロセスの変革（単位：％）



(2) 今後の人材採用で重視するデジタルスキル

IT・情報関連以外の職種（事務／営業／経理・会計・財務／工場勤務）で採用された人材が、採用後にデジタル関連の知識や技術を発揮して業務に貢献する「DX 兼務人材」に関して、今後の人材採用においては、デジタル化や DX 推進に関する提案ができるといったデジタルスキルをかなり重視している。

図表2 過去の採用時の重視と今後の重視との比較（DX 兼務人材）（単位：パーセント・ポイント）



(3) 代表者の属性とデジタル化・DX 推進

代表者の年代や IT 関連業務を経験しているかどうかは、社内のデジタル化・DX 推進とは統計的にはほとんど関係がない（図表3）。一方、代表者自身が、PC での事務処理に加えてアプリや管理システムのデジタルスキルを有している方が、社内のデジタル化・DX 推進につながる。

図表3 デジタル化の導入による社内の業務プロセスの変革
—代表者がPCしかできないか否か（t検定）

	PC以外も	PCのみ	差	stars	p.value
紙の文書のデジタル化	2.21	2.08	0.13	***	0.00
社内の一部において業務の効率化	2.21	2.12	0.09	**	0.04
社内全体において業務の効率化	2.12	2.00	0.12	***	0.01
テレワーク・リモートワークの推進	1.74	1.64	0.10	**	0.05
社内の一部において業務の変革	1.89	1.75	0.15	***	0.00
社内全体で効率化するような業務の変革	1.84	1.70	0.14	***	0.00
組織変革	1.42	1.36	0.06		0.17

（注1）PC以外には、アプリや管理システムその他、CAD/CAMやAI・IoTのスキル、プログラミングなどのスキルも含む。

（注2）2つのグループ間の平均得点に差があるかを確認するため、t検定を行った。各項目の平均得点が高いほど、その項目で、より結果が出ていることになる。星（stars、*）がついている場合、左右のグループ間の結果に、統計的に差があるといえる。星がなければ、左右のグループ間の結果に、統計的に差がないといえる。